



令和 8 年度 道路災害復旧 工事			
工事番号		5災 第 21 号	
路線 名		岩崎西目屋弘前線	
河川			
施工箇所		西津軽郡深浦町 大字南追良瀬山地内	
縦断 図		縮尺	V=1:200 H=1:400
図面番号		12 葉中	2
西北 県土 整備 事 務 所			
緑ヶ 沢 道 路 河 川 事 業 所			
青 森 県			

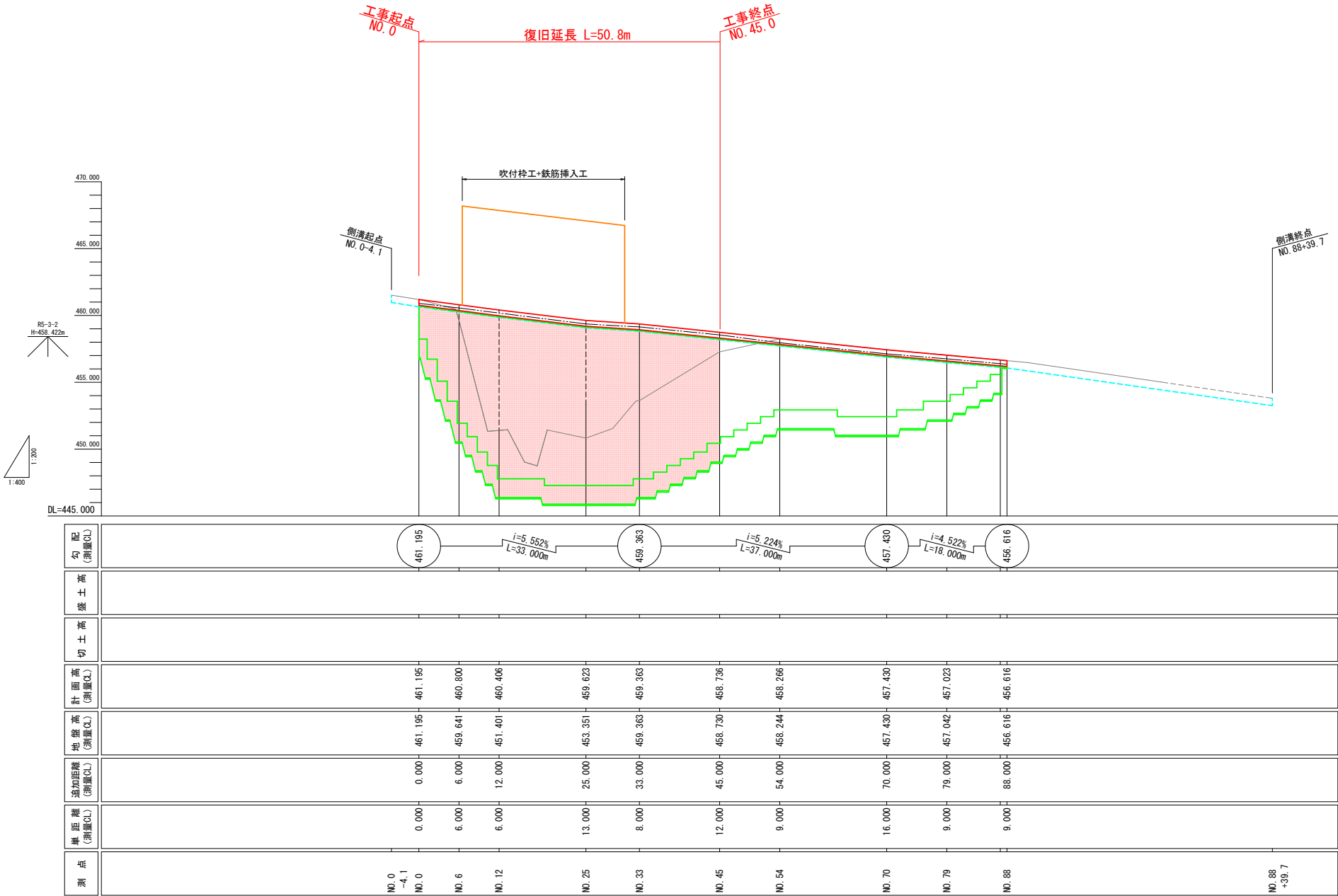
(測量CL)

2  
44

縦断図

V=1:200

H=1:400



令和 8 年度 道路災害復旧 工事	
工事番号	5災 第 21 号
路線 名	岩崎西目屋弘前線
施工箇所	西津軽郡深浦町 大字南追良瀬山地内
標準横断面図	縮尺 1:100
図面番号	12 葉中 3
西 北 県 土 整 備 事 務 所 緑 ケ 沢 道 路 河 川 事 業 所	
青 森 県	

車 道 舗 装

舗 装 構 成		施工厚	TA値	
表 層 工	⑤再生密粒度As (13F)	3	1 * 3	3.00
表 層 工	②再生密粒度As (13)	4	1 * 4	4.00
上層路盤工	粒調砕石 (M-40)	12	0.35 * 12	4.20
下層路盤工	再生砕石 (RC-40)	12	0.25 * 12	3.00
合 計		31		14.2

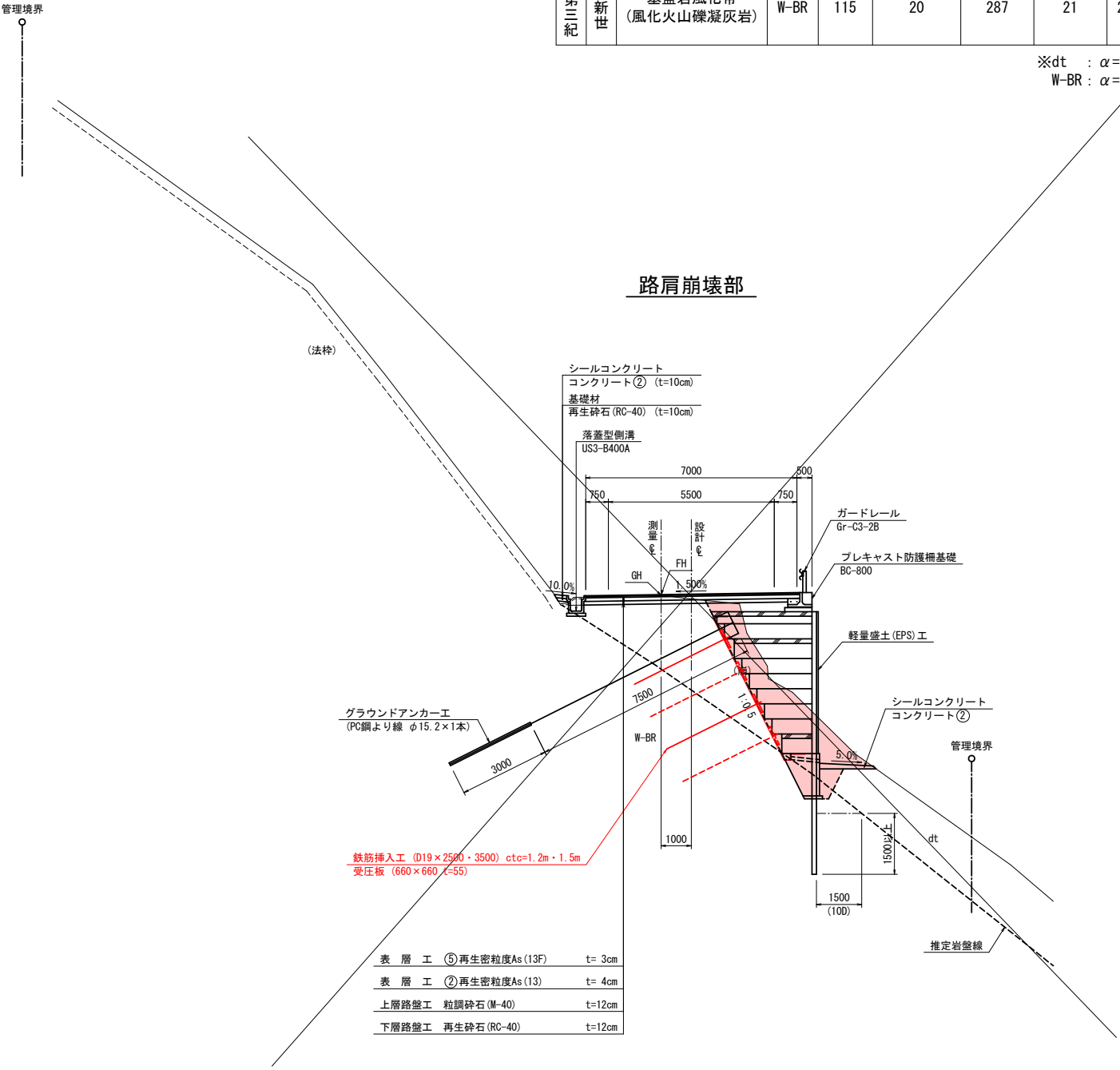
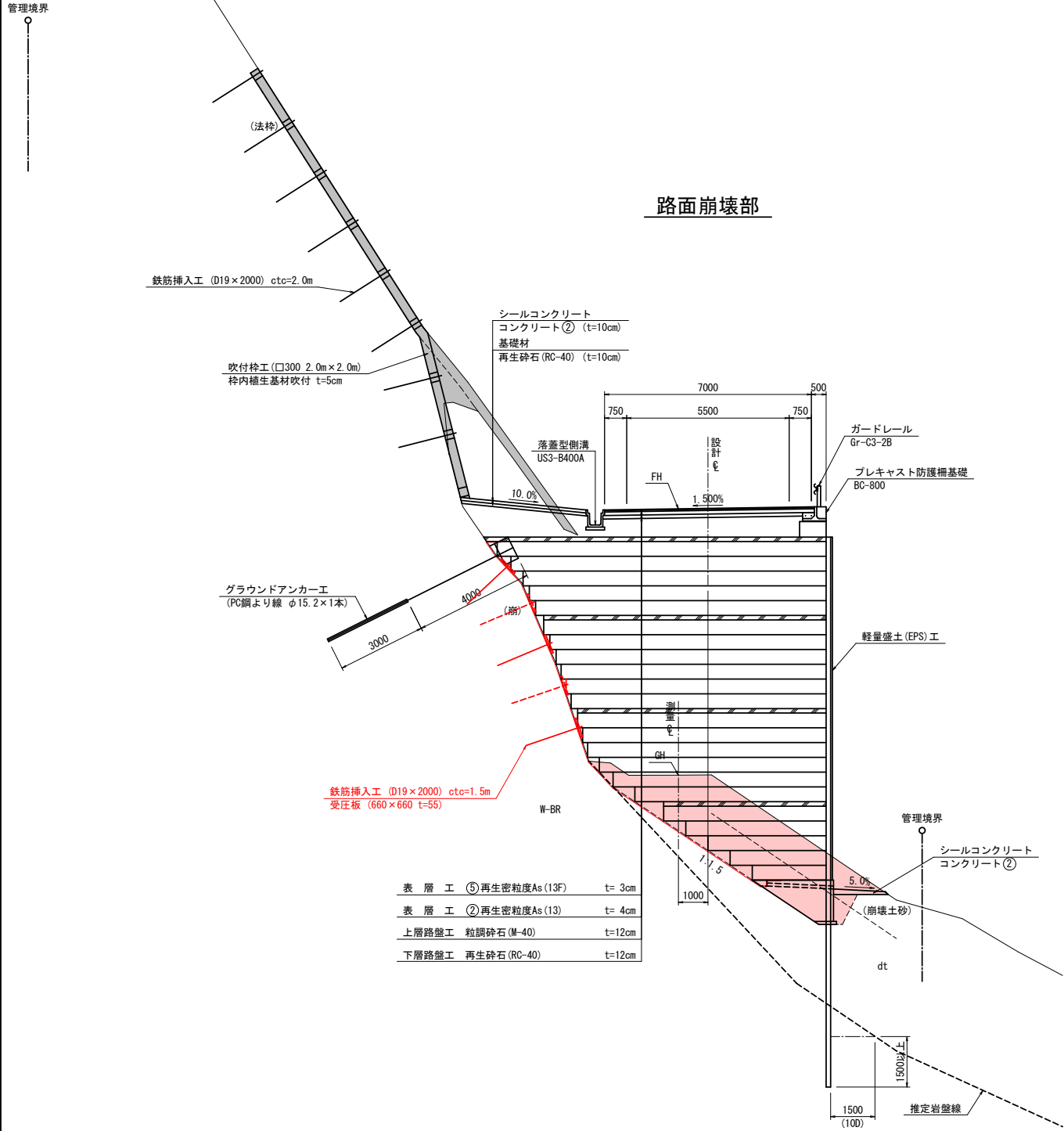
標準横断面図

S=1:100

土質定数一覧表

時代	地質区分	記号	設計 N値	単位体 積重量 $\gamma$ t (kN/m3)	粘着力 c (kN/m2)	内 部 摩擦角 $\phi$ (°)	変形係数 $\alpha E_0$ (kN/m2)
第四紀 完新世	崖錐堆積物	dt	18	19	0	37	50,400
新第三紀 中新世	基盤岩風化帯 (風化火山礫凝灰岩)	W-BR	115	20	287	21	280,900

※dt :  $\alpha=1$  (常時)  
W-BR :  $\alpha=4$  (常時)



令和 8 年度 道路災害復旧 工事	
工事番号	5災 第 21 号
路線 名	岩崎西目屋弘前線
施工箇所	西津軽郡深浦町 大字南追良瀬山地内
横 断 図 (1/6)	縮尺 1:200
図面番号	12 葉中 4
西 北 県 土 整 備 事 務 所 緑 ヱ 沢 道 路 河 川 事 業 所	
青 森 県	

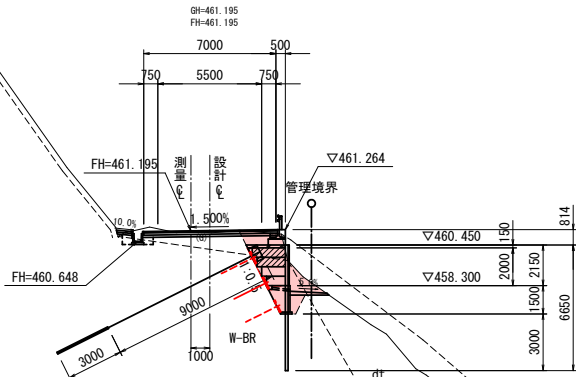
4  
43

NO. 0

管理境界

工事起点

NO. 0



項 目	記 号	数 量
掘削	片切(土砂)	CA1-1 6.4
	片切(軟岩)	CA1-2 3.7
	2.5m未満	BA1-1 0.7
路床盛土	2.5m～4.0m	BA1-2 -
	4.0m以上	BA1-3 -
路外盛土	2.5m未満	BA2-1 -
	2.5m～4.0m	BA2-2 -
	4.0m以上	BA2-3 -
法面整形 (切土法面)	土砂	CL1-1 1.1
	軟岩	CL1-2 3.5
床廻	土砂	CA2-1 0.3
	軟岩	CA2-2 4.8
埋戻	1m <sup>2</sup> /W	RA 1.0

3.6

(0.7)

(0.5)

(0.8)

※起点側側溝部

測点：NO.0		
名 称	数 量	備 考
発泡スチロールブロック	1.12 (m <sup>2</sup> )	D-20
発泡スチロールブロック	1.62 (m <sup>2</sup> )	D-25
発泡スチロールブロック	- (m <sup>2</sup> )	DX-24H
発泡スチロールブロック	- (m <sup>2</sup> )	DX-29
上部コンクリート床版	0.31 (m <sup>2</sup> )	t=150mm (D13-150×150)
中間コンクリート床版	- (m <sup>2</sup> )	t=150mm (D13-150×150)
裏込砕石	0.30 (m <sup>2</sup> )	切込砕石 (D-40)
土壌流出防止材 (不織布)	3.86 (m)	t=10mm
根巻コンクリート	1.21 (m <sup>2</sup> )	天端長 L= 1.25 m
均しコンクリート	0.06 (m <sup>2</sup> )	

## 横断図(1/6)

S=1:200

土質定数一覧表

時代		地質区分	記号	設計 N値	単位体 積重量 $\gamma_t$ (kN/m <sup>3</sup> )	粘着力 c (kN/m <sup>2</sup> )	内 部 摩擦角 $\phi$ (°)	変形係数 $\alpha E_0$ (kN/m <sup>2</sup> )
第四紀	完新世	崖錐堆積物	dt	18	19	0	37	50,400
新第三紀	中新世	基盤岩風化帯 (風化火山礫凝灰岩)	W-BR	115	20	287	21	280,900

※dt :  $\alpha=1$  (常時)

W-BR:  $\alpha=4$  (常時)

注記)

- ・管理境界は座標のない道路台帳を転写したものであることから、精度が低い。施工時は管理境界の確認を行うこと。
- ・横断図の地形は災害発生時(令和5年8月)のものであることから、施工時には崩壊状況に合わせてEPSの設置範囲を精査すること。
- ・NO.12～NO.45までの範囲は、W-BR層(推定岩盤線)まで掘削することを前提としているため、現地状況に合わせてdt層を確実に除去すること。

令和 8 年度 道路災害復旧 工事	
工事番号	5災 第 21 号
路線名 河川	岩崎西目屋弘前線
施工箇所	西津軽郡深浦町 大字南追良瀬山地内
横断図(2/6)	縮尺 1:200
図面番号	12 葉中 5
西 北 県 土 整 備 事 務 所 緑ヶ沢道路河川事業所	
青 森 県	

5  
43

NO. 6

## 横断図(2/6)

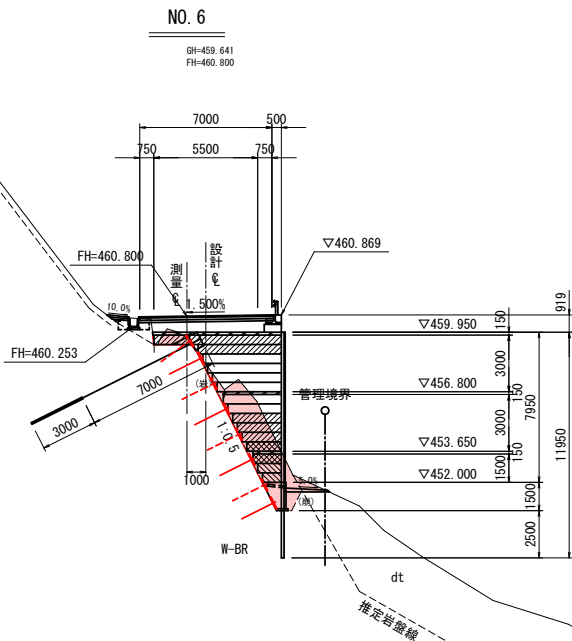
S=1:200

土質定数一覧表

時代		地質区分	記号	設計 N値	単位体 積重量 $\gamma t$ (kN/m3)	粘着力 c (kN/m2)	内 部 摩擦角 $\phi$ (°)	変形係数 $\alpha E_0$ (kN/m2)
第四紀	完新世	崖錐堆積物	dt	18	19	0	37	50, 400
新第三紀	中新世	基盤岩風化帯 (風化火山礫凝灰岩)	W-BR	115	20	287	21	280, 900

※dt :  $\alpha=1$  (常時)  
W-BR:  $\alpha=4$  (常時)

管理境界



項 目	記 号	数 量
掘削	片切(土砂)	CA1-1 0.9
	片切(軟岩)	CA1-2 11.6
	2.5m未満	BA1-1 -
路床盛土	2.5m～4.0m	BA1-2 -
	4.0m以上	BA1-3 3.4
路外盛土	2.5m未満	BA2-1 -
	2.5m～4.0m	BA2-2 -
	4.0m以上	BA2-3 -
法面整形 (切土法面)	土砂	CL1-1 -
	軟岩	CL1-2 9.3
床廻	土砂	CA2-1 0.6
	軟岩	CA2-2 1.4
埋戻	1m <sup>2</sup> /W	RA 1.0

測点 : NO.6		
名 称	数 量	備 考
発泡スチロールブロック	10.50 (m <sup>2</sup> )	D-20
発泡スチロールブロック	9.06 (m <sup>2</sup> )	D-25
発泡スチロールブロック	1.66 (m <sup>2</sup> )	DX-24H
発泡スチロールブロック	1.12 (m <sup>2</sup> )	DX-29
上部コンクリート床版	1.02 (m <sup>2</sup> )	t=150mm (D13-150×150)
中間コンクリート床版	0.69 (m <sup>2</sup> )	t=150mm (D13-150×150)
裏込砕石	1.05 (m <sup>2</sup> )	切込砕石 (D-40)
土壌流出防止材 (不織布)	12.33 (m)	t=10mm
根巻コンクリート	1.21 (m <sup>2</sup> )	天端長 L= 1.25 m
均しコンクリート	0.06 (m <sup>2</sup> )	

DL=416.000

注記)

- 管理境界は座標のない道路台帳を転写したものであることから、精度が低い。施工時は管理境界の確認を行うこと。
- 横断図の地形は災害発生時(令和5年8月)のものであることから、施工時には崩壊状況に合わせてEPSの設置範囲を精査すること。
- NO.12～NO.45までの範囲は、W-BR層(推定岩盤線)まで掘削することを前提としているため、現地状況に合わせてdt層を確実に除去すること。

令和 8 年度 道路災害復旧 工事	
工事番号	5災 第 21 号
路線名 河川	岩崎西目屋弘前線
施工箇所	西津軽郡深浦町 大字南追良瀬山地内
横断図(3/6)	縮尺 1:200
図面番号	12 葉中 6
西 北 県 土 整 備 事 務 所 緑ヶ沢道路河川事業所	
青 森 県	

6  
43

NO. 12

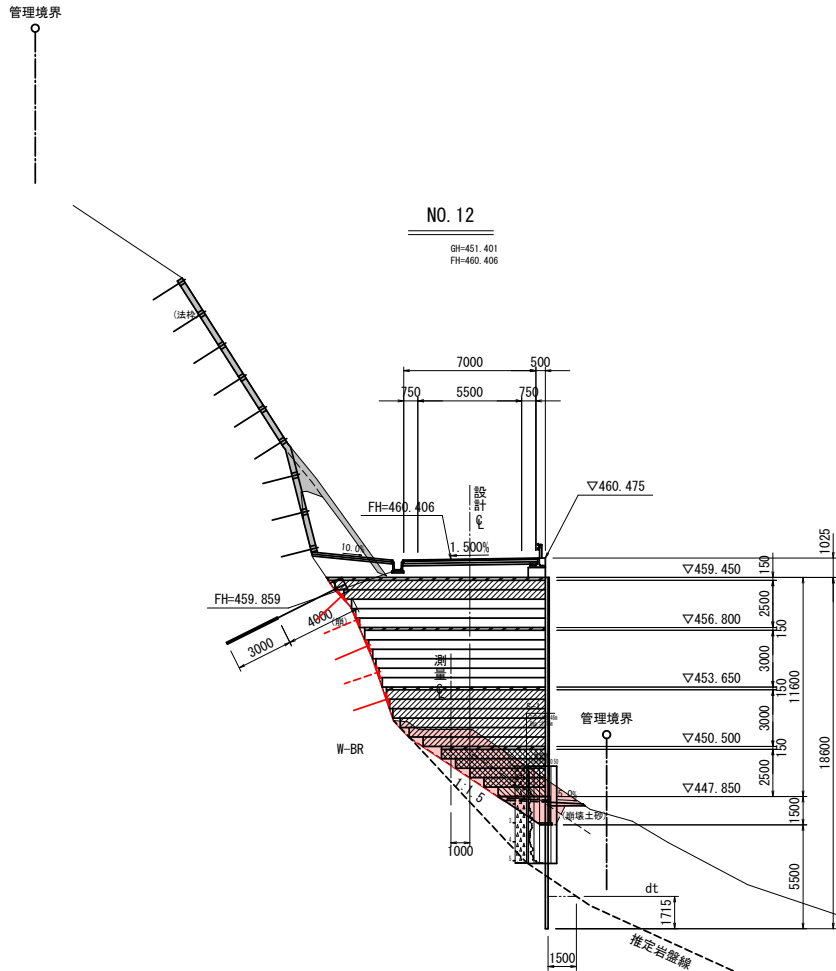
## 横断図(3/6)

S=1:200

土質定数一覧表

時代		地質区分	記号	設計 N値	単位体 積重量 $\gamma_t$ (kN/m <sup>3</sup> )	粘着力 c (kN/m <sup>2</sup> )	内 部 摩擦角 $\phi$ (°)	変形係数 $\alpha E_0$ (kN/m <sup>2</sup> )
第四紀	完新世	崖錐堆積物	dt	18	19	0	37	50, 400
新第三紀	中新世	基盤岩風化帯 (風化火山礫凝灰岩)	W-BR	115	20	287	21	280, 900

※dt :  $\alpha=1$  (常時)  
W-BR:  $\alpha=4$  (常時)



項目	記号	数量
掘削	片切(土砂)	CA1-1 16.1
	片切(軟岩)	CA1-2 -
	2.5m未満	BA1-1 -
路床盛土	2.5m~4.0m	BA1-2 -
	4.0m以上	BA1-3 4.6
	2.5m未満	BA2-1 -
路外盛土	2.5m~4.0m	BA2-2 2.6
	4.0m以上	BA2-3 0.9
法面整形 (切土法面)	土砂	CL1-1 -
	軟岩	CL1-2 -
床掘	土砂	CA2-1 1.8
	軟岩	CA2-2 -
埋戻	1m <sup>2</sup> /W	RA 0.6

名 称	数 量	備 考
発泡スチロールブロック	42.30 (m <sup>2</sup> )	D-20
発泡スチロールブロック	33.95 (m <sup>2</sup> )	D-25
発泡スチロールブロック	8.75 (m <sup>2</sup> )	DX-24H
発泡スチロールブロック	1.25 (m <sup>2</sup> )	DX-29
上部コンクリート床版	1.73 (m <sup>2</sup> )	t=150mm (D13-150×150)
中間コンクリート床版	3.52 (m <sup>2</sup> )	t=150mm (D13-150×150)
裏込砕石	2.44 (m <sup>2</sup> )	切込砕石 (0-40)
土壌流出防止材 (不織布)	16.91 (m)	t=10mm
根巻コンクリート	2.31 (m <sup>2</sup> )	天端長 L= 2.75 m
均しコンクリート	0.07 (m <sup>2</sup> )	

DL=418.000

注記)  
・管理境界は座標のない道路台帳を転写したものであることから、精度が低い。施工時は管理境界の確認を行うこと。  
・横断図の地形は災害発生時(令和5年8月)のものであることから、施工時には崩壊状況に合わせてEPSの設置範囲を精査すること。  
・NO. 12~NO. 45までの範囲は、W-BR層(推定岩盤線)まで掘削することを前提としているため、現地状況に合わせてdt層を確実に除去すること。

令和 8 年度 道路災害復旧 工事	
工事番号	5災 第 21 号
路線名 河川	岩崎西目屋弘前線
施工箇所	西津軽郡深浦町 大字南迫良瀬山地内
横断図(4/6)	縮尺 1:200
図面番号	12 葉中 7
西 北 県 土 整 備 事 務 所 緑ヶ沢道路河川事業所	
青 森 県	

7  
43

NO. 25

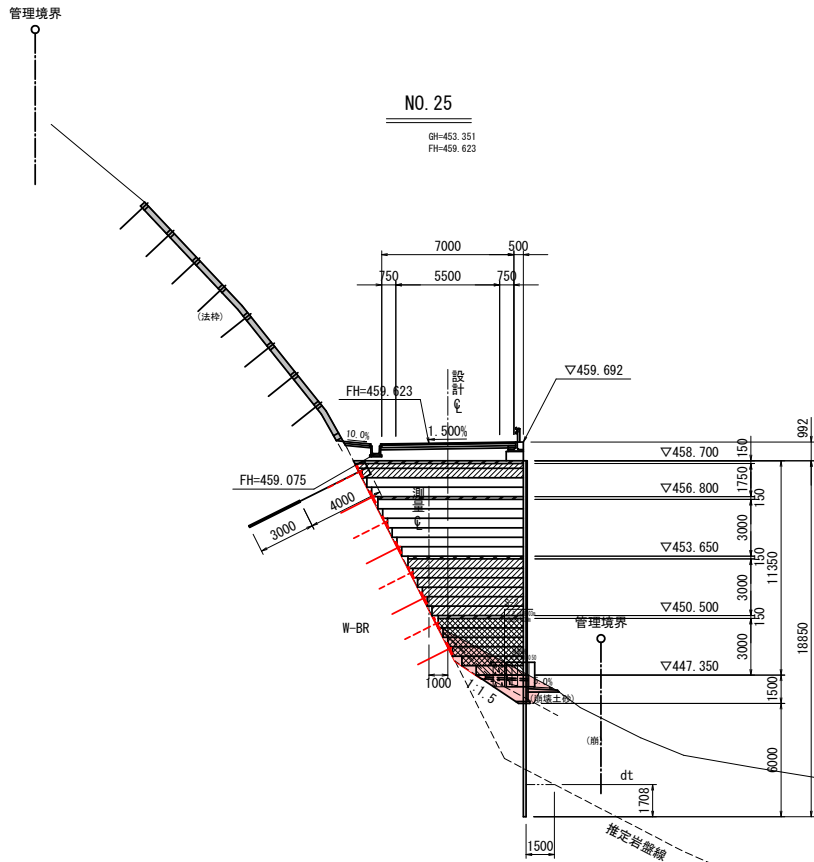
## 横断図(4/6)

S=1:200

土質定数一覧表

時代		地質区分	記号	設計 N値	単位体 積重量 $\gamma t$ (kN/m3)	粘着力 c (kN/m2)	内 部 摩擦角 $\phi$ (°)	変形係数 $\alpha E_0$ (kN/m2)
第四紀	完新世	崖錐堆積物	dt	18	19	0	37	50,400
新第三紀	中新世	基盤岩風化帯 (風化火山礫凝灰岩)	W-BR	115	20	287	21	280,900

※dt :  $\alpha=1$  (常時)  
W-BR:  $\alpha=4$  (常時)



項 目	記 号	数 量
掘削	片切(土砂)	CA1-1 6.9
	片切(軟岩)	CA1-2 -
	2.5m未満	BA1-1 -
路床盛土	2.5m~4.0m	BA1-2 -
	4.0m以上	BA1-3 4.3
	2.5m未満	BA2-1 0.8
路外盛土	2.5m~4.0m	BA2-2 -
	4.0m以上	BA2-3 -
法面整形 (切土法面)	土砂	CL1-1 -
	軟岩	CL1-2 -
床廻	土砂	CA2-1 0.8
	軟岩	CA2-2 -
埋戻	1m <sup>2</sup> /W	RA 0.3

測点 : NO. 25			
名 称	数 量	備 考	
発泡スチロールブロック	29.36 (m <sup>2</sup> )	D-20	
発泡スチロールブロック	22.88 (m <sup>2</sup> )	D-25	
発泡スチロールブロック	9.88 (m <sup>2</sup> )	DX-24H	
発泡スチロールブロック	1.25 (m <sup>2</sup> )	DX-29	
上部コンクリート床版	1.34 (m <sup>2</sup> )	t=150mm (D13-150×150)	
中間コンクリート床版	2.75 (m <sup>2</sup> )	t=150mm (D13-150×150)	
表込砕石	1.76 (m <sup>2</sup> )	切込砕石 (D-40)	
土壌流出防止材 (不織布)	14.83 (m)	t=10mm	
根巻コンクリート	2.31 (m <sup>2</sup> )	天端長 L= 2.75 m	
均しコンクリート	0.07 (m <sup>2</sup> )		

測点 : NO. 19 (仮想断面)			
名 称	数 量	備 考	
発泡スチロールブロック	33.63 (m <sup>2</sup> )	D-20	
発泡スチロールブロック	23.07 (m <sup>2</sup> )	D-25	
発泡スチロールブロック	9.88 (m <sup>2</sup> )	DX-24H	
発泡スチロールブロック	1.25 (m <sup>2</sup> )	DX-29	
上部コンクリート床版	1.38 (m <sup>2</sup> )	t=150mm (D13-150×150)	
中間コンクリート床版	2.75 (m <sup>2</sup> )	t=150mm (D13-150×150)	
表込砕石	1.83 (m <sup>2</sup> )	切込砕石 (D-40)	
土壌流出防止材 (不織布)	15.39 (m)	t=10mm	
根巻コンクリート	2.31 (m <sup>2</sup> )	天端長 L= 2.75 m	
均しコンクリート	0.07 (m <sup>2</sup> )		

- 注記)
- 管理境界は座標のない道路台帳を転写したものであることから、精度が低い。施工時は管理境界の確認を行うこと。
  - 横断図の地形は災害発生時(令和5年8月)のものであることから、施工時には崩壊状況に合わせてEPSの設置範囲を精査すること。
  - NO. 12~NO. 45までの範囲は、W-BR層(推定岩盤線)まで掘削することを前提としているため、現地状況に合わせてdt層を確実に除去すること。

令和 8 年度 道路災害復旧 工事	
工事番号	5災 第 21 号
路線 名	岩崎西目屋弘前線
施工箇所	西津軽郡深浦町 大字南追良瀬山地内
横 断 図 (5/6)	縮尺 1:200
図面番号	12 葉中 8
西 北 県 土 整 備 事 務 所 緑 ケ 沢 道 路 河 川 事 業 所	
青 森 県	

8  
43

NO. 33

## 横断図(5/6)

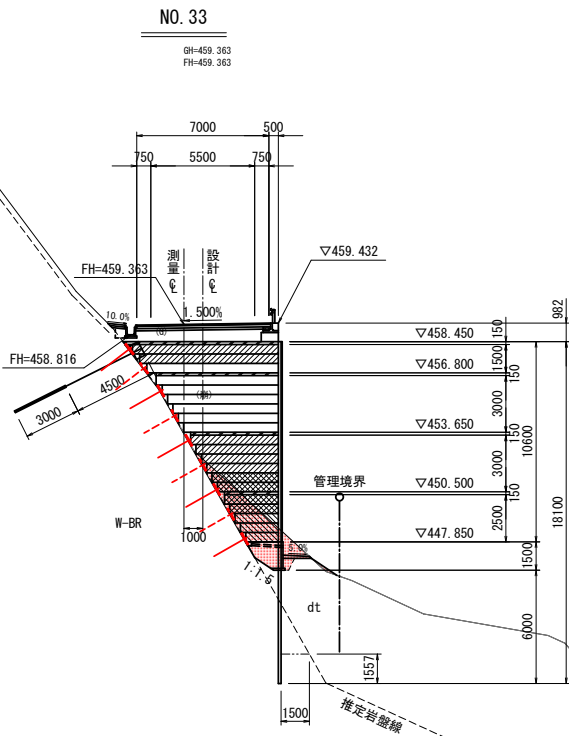
S=1:200

土質定数一覧表

時代		地質区分	記号	設計 N値	単位体 積重量 $\gamma t$ (kN/m3)	粘着力 c (kN/m2)	内 部 摩擦角 $\phi$ (°)	変形係数 $\alpha E_0$ (kN/m2)
第四紀	完新世	崖錐堆積物	dt	18	19	0	37	50, 400
新第三紀	中新世	基盤岩風化帯 (風化火山礫凝灰岩)	W-BR	115	20	287	21	280, 900

※dt :  $\alpha=1$  (常時)  
W-BR:  $\alpha=4$  (常時)

管理境界



項 目	記 号	数 量
掘削	片切(土砂)	CA1-1 8.5
	片切(軟岩)	CA1-2 -
	2.5m未満	BA1-1 -
路床盛土	2.5m~4.0m	BA1-2 -
	4.0m以上	BA1-3 4.3
路外盛土	2.5m未満	BA2-1 -
	2.5m~4.0m	BA2-2 -
	4.0m以上	BA2-3 -
法面整形 (切土法面)	土砂	CL1-1 -
	軟岩	CL1-2 -
床層	土砂	CA2-1 0.9
	軟岩	CA2-2 0.0
埋戻	1m <sup>2</sup> /W	RA 0.6

測点 : NO.33		
名 称	数 量	備 考
発泡スチロールブロック	20.67 (m <sup>2</sup> )	D-20
発泡スチロールブロック	15.97 (m <sup>2</sup> )	D-25
発泡スチロールブロック	6.08 (m <sup>2</sup> )	DX-24H
発泡スチロールブロック	3.01 (m <sup>2</sup> )	DX-29
上部コンクリート床版	1.22 (m <sup>2</sup> )	t=150mm (D13-150×150)
中間コンクリート床版	2.10 (m <sup>2</sup> )	t=150mm (D13-150×150)
裏込砕石	1.73 (m <sup>2</sup> )	切込砕石 (D-40)
土壌流出防止材 (不織布)	13.90 (m)	t=10mm
根巻コンクリート	2.00 (m <sup>2</sup> )	天端長 L= 1.97 m
均しコンクリート	0.07 (m <sup>2</sup> )	

DL=415.000

- 注記)
- ・管理境界は座標のない道路台帳を転写したものであることから、精度が低い。施工時は管理境界の確認を行うこと。
  - ・横断図の地形は災害発生時(令和5年8月)のものであることから、施工時には崩壊状況に合わせてEPSの設置範囲を精査すること。
  - ・NO.12~NO.45までの範囲は、W-BR層(推定岩盤線)まで掘削することを前提としているため、現地状況に合わせてdt層を確実に除去すること。



令和 8 年度 道路災害復旧 工事			
工事番号		5災 第 21 号	
路線 名		岩崎西目屋弘前線	
河川			
施工箇所		西津軽郡深浦町 大字南追良瀬山地内	
横断図(6/6)		縮尺	1:200
図面番号		12 葉中	9
西北 県土整備事務所 鯉ヶ沢 道路 河川事業所			
青 森 県			

9  
43

NO. 45

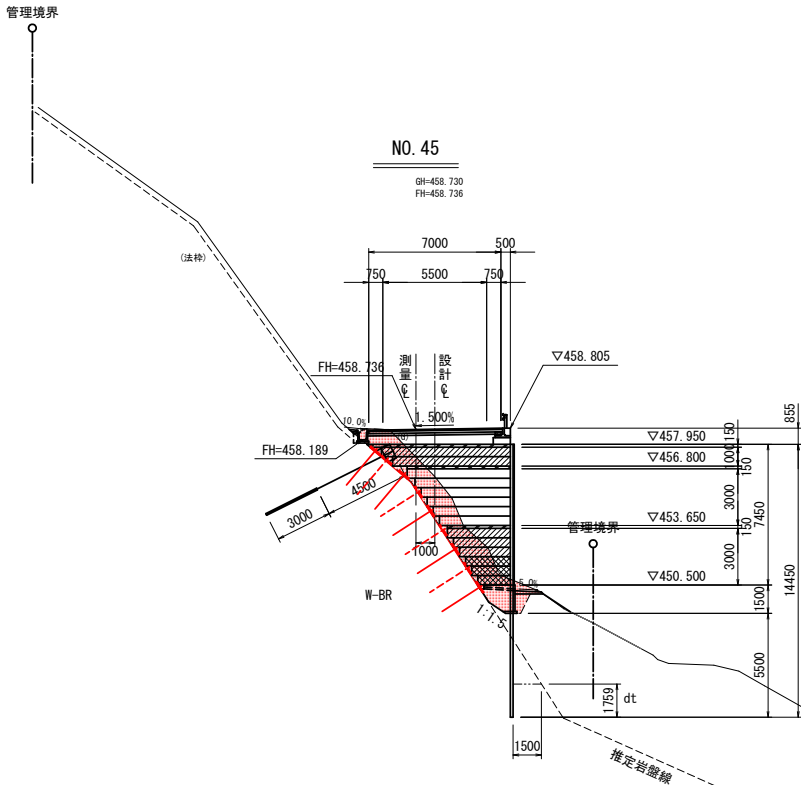
## 横断図(6/6)

S=1:200

土質定数一覧表

時代		地質区分	記号	設計 N値	単位体 積重量 $\gamma t$ (kN/m3)	粘着力 c (kN/m2)	内 部 摩擦角 $\phi$ (°)	変形係数 $\alpha E_0$ (kN/m2)
第四紀	完新世	崖錐堆積物	dt	18	19	0	37	50, 400
新第三紀	中新世	基盤岩風化帯 (風化火山礫凝灰岩)	W-BR	115	20	287	21	280, 900

※dt :  $\alpha=1$  (常時)  
W-BR:  $\alpha=4$  (常時)



項 目	記 号	数 量
掘削	片切(土砂)	CA1-1 14.7
	片切(軟岩)	CA1-2 -
	2.5m未満	BA1-1 -
路床盛土	2.5m～4.0m	BA1-2 -
	4.0m以上	BA1-3 3.3
	2.5m未満	BA2-1 -
路外盛土	2.5m～4.0m	BA2-2 -
	4.0m以上	BA2-3 -
法面整形 (切土法面)	土砂	CL1-1 -
	軟岩	CL1-2 -
床掘	土砂	CA2-1 1.8
	軟岩	CA2-2 0.2
埋戻	1m <sup>2</sup> /W	RA 0.7

測点 : NO. 45		
名 称	数 量	備 考
発泡スチロールブロック	13.73 (m <sup>2</sup> )	D-20
発泡スチロールブロック	11.05 (m <sup>2</sup> )	D-25
発泡スチロールブロック	3.07 (m <sup>2</sup> )	DX-24H
発泡スチロールブロック	- (m <sup>2</sup> )	DX-29
上部コンクリート床版	1.13 (m <sup>2</sup> )	t=150mm (D13-150×150)
中間コンクリート床版	1.32 (m <sup>2</sup> )	t=150mm (D13-150×150)
裏込砕石	1.55 (m <sup>2</sup> )	切込砕石 (D-40)
土壌流出防止材 (不織布)	10.98 (m)	t=10mm
根巻コンクリート	1.98 (m <sup>2</sup> )	天端長 L= 1.98 m
均しコンクリート	0.07 (m <sup>2</sup> )	

DL=413.000

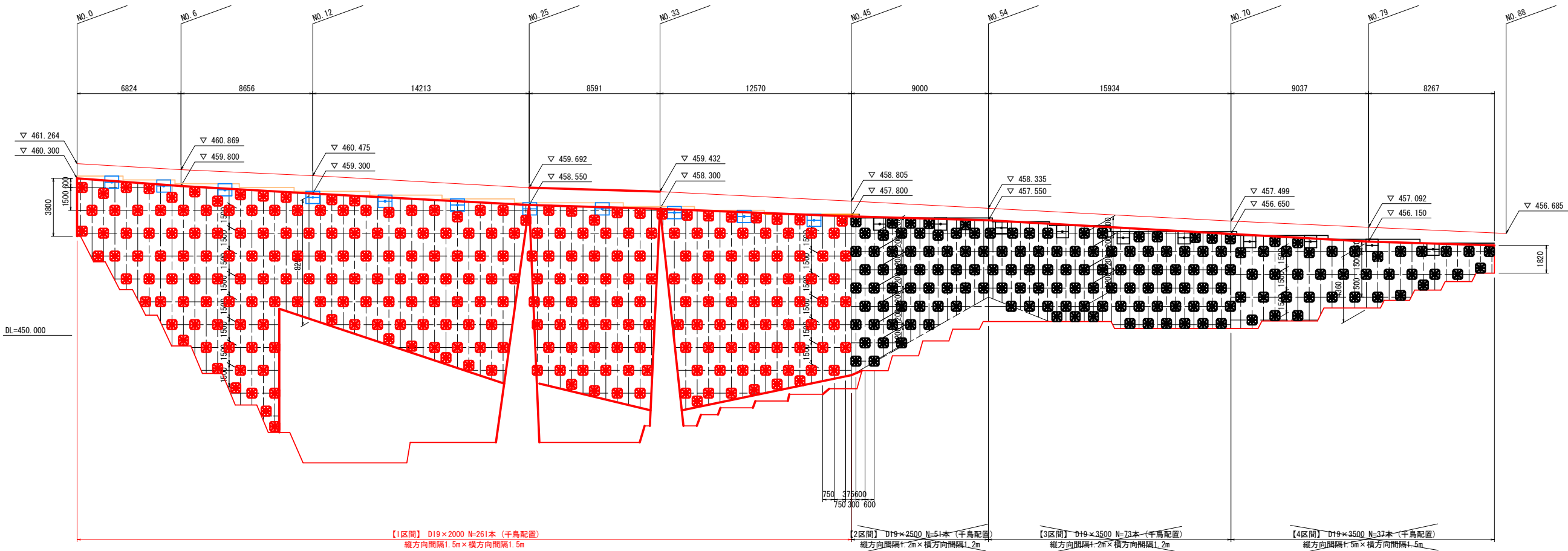
- 注記)
- 管理境界は座標のない道路台帳を転写したものであることから、精度が低い。施工時は管理境界の確認を行うこと。
  - 横断図の地形は災害発生時(令和5年8月)のものであることから、施工時には崩壊状況に合わせてEPSの設置範囲を精査すること。
  - NO. 12～NO. 45までの範囲は、W-BR層(推定岩盤線)まで掘削することを前提としているため、現地状況に合わせてdt層を確実に除去すること。

令和 8 年度 道路災害復旧 工事		
工事番号	5災 第 21 号	
路線 名	岩崎西目屋弘前線	
施工箇所	西津軽郡深浦町 大字南追良瀬山地内	
鉄筋挿入工・ 受圧板展開図	縮尺	1:150
図面番号	12 葉中	10
西北 県土整備事務所 錦ヶ沢 道路 河川 事業所		
青 森 県		

25  
43

## 鉄筋挿入工・受圧板展開図

S=1:150



### 土質定数

No.	土質名	湿潤重量 $\gamma_t$ (kN/m <sup>3</sup> )	飽和重量 $\gamma_{sat}$ (kN/m <sup>3</sup> )	粘着力 C (kN/m <sup>2</sup> )	内部摩擦角 $\phi$ (°)	極限周面摩擦抵抗 地盤種類 $\gamma_t$ (N/mm <sup>2</sup> )	$\tau_p$ (N/mm <sup>2</sup> )
1	崖錐堆積物	19	20	0	37	砂礫	0.128
2	風化火山礫凝灰岩	20	21	287	21	軟岩	0.480

### 材料表

名 称	規格	単位	数 量	備 考
MK受圧板	SQ60kN	枚	261	リサイクルプラスチック製 600×600 t=55 60kN
鉄筋挿入工 1区間	D19 L= 2000mm	本	261	削孔径φ65mm(軽量ポーリングマシン)
鉄筋挿入工 2区間	D19 L= 2500mm	本	51	削孔径φ65mm(バックホウドリル)
鉄筋挿入工 3区間	D19 L= 3500mm	本	73	削孔径φ65mm(バックホウドリル)
鉄筋挿入工 4区間	D19 L= 3500mm	本	37	削孔径φ65mm(バックホウドリル)

※現況堆積土を確認(現況測量)のうえ数量精査必要

### 1区間平均削孔長(鉄筋挿入工 L= 2000mm)

地層名	地層記号	積算用土質分類	単位	平均削孔長	備 考
崖錐堆積物	dt	礫質土	m	0.000	
風化火山礫凝灰岩	W-BR	軟 岩	m	1.840	
		合 計	m	1.840	

### 2区間平均削孔長(鉄筋挿入工 L= 2500mm)

地層名	地層記号	積算用土質分類	単位	平均削孔長	備 考
崖錐堆積物	dt	礫質土	m	0.656	
風化火山礫凝灰岩	W-BR	軟 岩	m	1.684	
		合 計	m	2.340	逆巻き施工

### 3区間平均削孔長(鉄筋挿入工 L= 3500mm)

地層名	地層記号	積算用土質分類	単位	平均削孔長	備 考
崖錐堆積物	dt	礫質土	m	2.078	
風化火山礫凝灰岩	W-BR	軟 岩	m	1.262	
		合 計	m	3.340	逆巻き施工

### 4区間平均削孔長(鉄筋挿入工 L= 3500mm)

地層名	地層記号	積算用土質分類	単位	平均削孔長	備 考
崖錐堆積物	dt	礫質土	m	2.979	
風化火山礫凝灰岩	W-BR	軟 岩	m	0.361	
		合 計	m	3.340	逆巻き施工



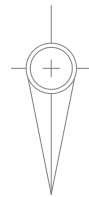
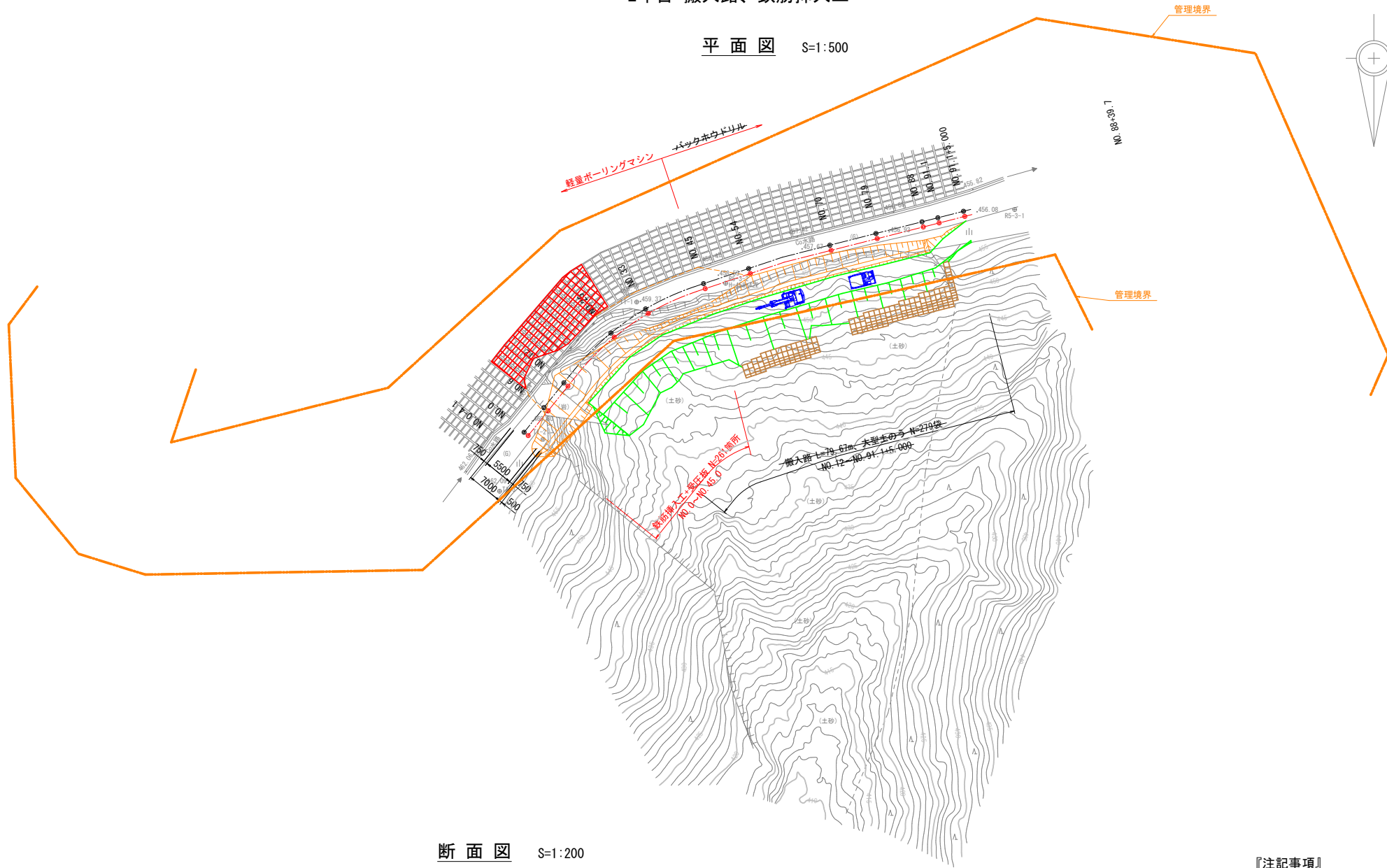
令和 8 年度 道路災害復旧 工事	
工事番号	5災 第 21 号
路線 名	岩崎西目屋弘前線
施工箇所	西津軽郡深浦町 大字南迫良瀬山地内
施工計画図	縮尺 図 示
図面番号	12 葉中 12
西 北 県 土 整 備 事 務 所 緑 ヶ 沢 道 路 河 川 事 業 所	
青 森 県	



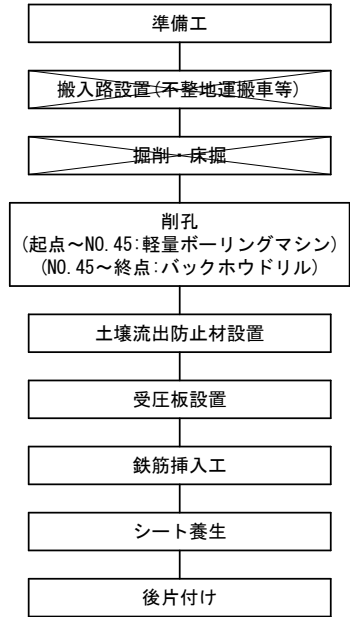
## 施工計画図

### 2年目:搬入路、鉄筋挿入工

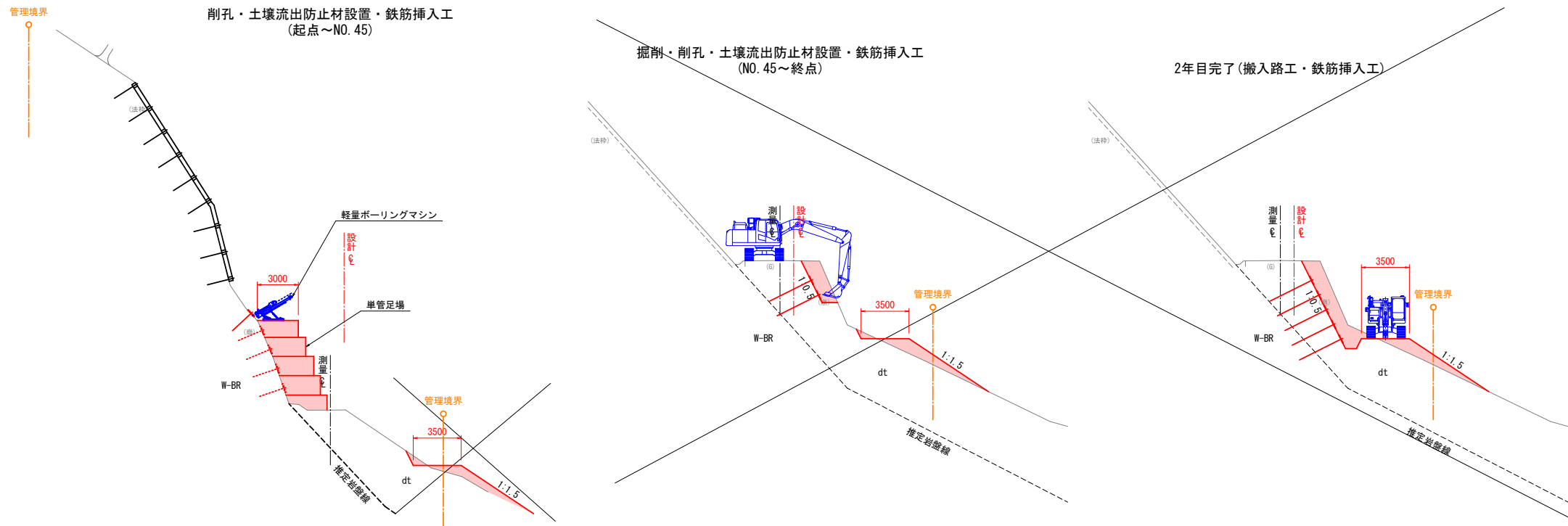
平面図 S=1:500



#### ＜施工フロー＞搬入路・鉄筋挿入工



断面図 S=1:200



#### 『注記事項』

・現場での作業可能期間は、除雪作業を行ったうえで5月～11月中旬までの6.5ヶ月を想定している。

・施工については、起点からNO. 33、NO. 33から終点の分割での施工を想定しており、搬入路を設置して起点からNO. 33までの掘削→床掘を先行し、削孔→鉄筋挿入工はNO. 33から終点の掘削→床掘、削孔→鉄筋挿入工と同時施工とする。

・削孔については、起点側(起点～NO. 45)は、単管足場による軽量ボーリングマシンでの施工を想定しており、資材及び軽量ボーリングマシンは、起点側(岩崎側)からクレーンにより搬入する。  
終点側(NO. 45～終点)は、逆巻きでの掘削、バックホウドリルによる施工を想定している。

・施工後は、冬期間養生することとなるため、軽量盛土背面に通常使用する吸出防止材の代わりに、土壌流出防止材(吸出防止材兼用)を設置する。  
また、施工箇所については全面シート養生を行い、雨水等による斜面への影響が無いよう注意する必要がある。  
基礎部分となる箇所には、雨水等が滞水しないよう水抜き箇所を数箇所設置する必要がある。